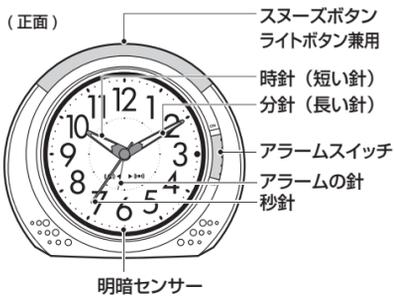
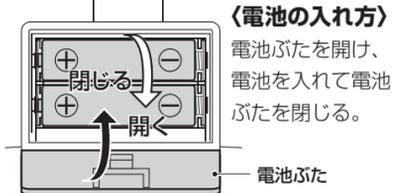


1 電池を入れて時刻を合わせる

図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。



〈裏面操作部〉

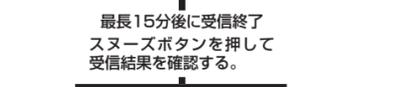


電池の⊕を逆向きに入れると、電池の発熱・破裂・液もれの原因になります。

【受信の流れと結果の確認】



4、8、12 時のいずれかの時刻に移動します。移動後、針が停止して受信を開始します。



受信確認音は25時間以内に、受信に成功しているときに鳴ります。

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときには、**電波を受信できない場合**の「手動での時刻の合わせ方」をお読みください。

電波を受信しやすい窓際などに置いてください。

① 電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて単3形アルカリ乾電池2個を入れる
確認音が鳴ります。

※〈電池の入れ方〉参照。

② 強制受信ボタンを押す
確認音が鳴り、針が動き出し、4、8、12 時のいずれかに停止します。

電池を入れた後は、誤作動防止のため必ず強制受信ボタンを押してください。

③ 受信を終了するまで待つ
2～15分後に受信が終了し、時計・分針・秒針が早送りで時刻を指します。
○受信中は、操作ボタンには触れないでください。

④ スヌーズボタンを押して受信結果を確認する……………【受信の流れと結果の確認】参照
受信に成功した場合、受信確認音が鳴ります。失敗した場合は鳴りません。受信に失敗した場合は、

電波を受信できない場合を参照。

○受信に失敗した場合、表示されている時刻は正しくありません。

○受信が成功しているのに、時刻が正しくないときは、ノイズにより誤受信した可能性があります。強制受信ボタンを押して、再度受信させてください。

○確認音は、電池を入れたとき、強制受信ボタンを押したとき、アラームスイッチをONにしたときに「ビ」と鳴ります。

○受信確認音は、標準電波の受信に成功しているときに、スヌーズボタンを押すと「ビビ」と鳴ります。
※受信確認音は暗いところでは鳴りません。

2 アラーム機能の使い方

① 目覚まし時刻の合わせ方

アラームつまみを必ず矢印の方向に回し、アラームの針を目覚まし時刻に合わせます。

- 目覚まし時刻は10分単位で設定できます。
- アラームつまみを逆に回すと、アラーム精度が悪くなる場合があります。
- 文字板のデザインにより、目覚まし時刻目盛のないタイプもあります。

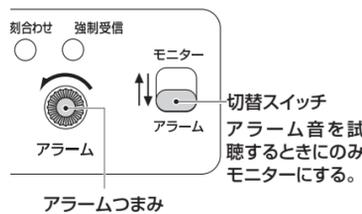
② アラームスイッチの設定

アラームスイッチを「ON」にすると、合わせた時刻にアラームが鳴ります。アラームを止めるとき、または鳴らさないときには「OFF」にします。

※アラームスイッチを「ON」にすると、確認音が鳴ります。

③ アラーム音の試聴

- ①切替スイッチを「モニター」側にします。
- ②アラームスイッチを「ON」にするとアラームが鳴ります。「OFF」にすると止まります。
- ③試聴後は必ず切替スイッチを「アラーム」にしてください。



必ず矢印方向に回す



(例:目覚まし時刻を6時20分にセット)



■アラーム音の自動切り替え

アラーム音は、はじめに電子音が約12秒鳴り、その後ベル音に切り替わります。

■スヌーズボタンについて

スヌーズボタンには3つの機能があります。

①スヌーズ機能 (アラーム音を一時的に止める)
アラームが鳴っているときに押すと、約5分間アラーム音が停止します。この機能は、アラーム設定時刻から20～50分間繰り返し使えます。アラーム音を完全に止めるにはアラームスイッチを「OFF」にします。

②文字板面照明機能
スヌーズボタンはライトボタンを兼ねています。押ししている間と離してから約4秒間文字板面を照明します。

③受信に成功している場合は受信確認音を鳴らす
25時間以内に電波の受信に成功しているときには、スヌーズボタンを押すと受信確認音が鳴ります。暗いところでは受信確認音は鳴りません。

■アラームオートストップ機能

鳴っているアラームを放置すると、約5分間鳴り続けて自動的に止まります。アラームスイッチは「ON」のままです。

アラームご使用上の注意

- アラームスイッチをONにしたままでは、毎日午前と午後の2回アラームが鳴りますので、使用しないときは、OFFにしてください。
- アラームを長期間使用しませんが、ベル音の鳴りが悪くなる場合がありますので、2～3カ月に1回、約1分ぐらい鳴らすことをおすすめします。
- アラームの音量は調節できません。

トラブル? アラームが鳴らない

- アラームつまみを回して、現在時刻に合わせたがアラームが鳴らない。
- 時刻合わせボタンを操作してアラーム時刻に合わせたがアラームが鳴らない。

このようなときは、アラームスイッチを一度「OFF」にしてから「ON」にするとアラームが鳴り出します。

アラームつまみや時刻合わせボタンを操作してアラーム音を試聴するときには、アラームスイッチを「OFF」にしてから操作し、その後にアラームスイッチを「ON」にするとアラームが鳴り出します。

Ⓐ 電波受信機能のON/OFF操作

受信機能 OFF (無効にして手動で時刻を合わせる)

強制受信ボタンを連続して4回押してください。強制受信ボタンを押すタイミングは、**確認音が鳴り始めたらずくに押してください。**

受信機能がOFFになると、強制受信ボタンを押しても確認音が鳴りません。

▶時刻は手動で合わせてください。

受信機能 ON (有効にして受信を開始する)

時刻合わせボタンを押しながら、強制受信ボタンを押してすぐ離し、その後時刻合わせボタンを離します。確認音が鳴り、照明ランプが点滅します。この後、必ず強制受信ボタンを押して受信を開始させてください。

アドバイス

受信機能をOFFにするときは、確認音が鳴り始めたらずくに強制受信ボタンを押す操作を確認音が鳴らなくなるまで繰り返してください。

○この説明の中で「押す」は「押してすぐ離す」ことを意味しています。

○工場出荷時の設定は、受信機能はONになっています。

○操作のタイミングによっては、ON/OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

○受信機能がOFFのときに電池を取り出しても長い時間、設定を保持します。受信機能をONにするには、上記の説明に従って操作してください。

○受信機能がOFFのときに強制受信ボタンを押すと早送りでおよそ12時間分動き、その後、通常の時刻表示になります。

③ 明暗センサーのはたらき

明暗センサーが暗いと判別したときは、秒針が12時位置に停止します。昼間や夜間の照明された環境でも、明るさが不足するとセンサーが反応します。

Ⓒ 電池の交換時期お知らせ機能

十分に明るいところで、秒針が12時位置に停止しているときは[※]、電池の交換時期です。指定の電池に速やかに交換してください。そのまま放置した場合、電池からの液もれが発生し、故障や家具などを汚す原因となります。

○交換時期のお知らせを開始してから1ヵ月程度は動き続けます。

○電池の交換時期になるとライトボタンを押しても照明が点灯しません。

(注) 強制受信ボタンを押して、受信しているときを除きます。

電波を受信できない場合

●朝までそのまましておく

一般に夜間は電波状態が良くなるので、一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。

●場所を変える

電波の受信しやすい窓ぎわなどで、取扱説明書の日本地図を参考に、電波の送信所になるべく時計の正面または裏面が向くように置き、強制受信ボタンを押して受信を試みてください。

●時刻を合わせて使用する

屋外たとえばベランダなどで標準電波を受信させるか、手動で時刻を合わせてください。通常のクオーツ時計としてご使用になれます。

手動での時刻の合わせ方

時刻合わせボタンを操作することにより、手動で時刻を合わせることができます。

標準電波を受信できない場合の時間精度はクオーツ精度になります。

●受信機能がONのときは、手動で時刻を合わせても、電波の受信に成功すると時刻を修正します。

時刻合わせボタンを押すと、時・分針の修正モードになります。

○時刻合わせボタンを押して、すぐに離れた場合は1分進みます。

○時刻合わせボタンを押し続けると早送りします。秒針は12時位置になると停止し、時計と分針は動き続けます。

④ボタン操作をしていないのに針が早送りしているときは、通常の動きになってから操作してください。

秒針の動きについて

時刻合わせボタンを離れた時点でゼロ秒から秒を刻み始めます。このとき秒針が12時位置に止まっていない場合は、秒針は早送りで現在時刻に移動します。

電波を受信しにくい環境

つぎのような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く

標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でご使用になるときには、電波受信機能をOFFにして手動で時刻を合わせてください。受信機能がONの状態では、まれに日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

電池の交換について 早めに交換して液もれを防ぎましょう

注意 電池からの液もれにより、時計の修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。電池からの液もれや発熱、破裂を防ぐために、つぎのことをお守りください。

- 時計が止まっているときは、指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 古い乾電池と新しい乾電池、マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混ぜて使用しない。
- 動いていても1年に1回定期的に交換する。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。